



# GUIDELINE

## 授業設計と成績評価ガイドライン

—授業改善 PDCA サイクルの構築と学生の主体的な学修に向けて—

## ○「授業設計と成績評価のガイドライン」について

成績評価ガイドラインを検討するワーキンググループでは、他大学におけるガイドラインの調査や議論を重ね、ガイドラインのたたき台を各部局の先生方に提示し意見を収集しました。集まった意見をもとに、授業設計と成績評価のガイドラインの導入においては、全学的な「成績評価の基準表」と各教員が授業ごとに作成する「授業別ルーブリック」の導入を軸とすることになりました。

本リーフレットでは、ガイドラインの要点を抜粋して紹介します。

### ガイドラインの要点は3つあります

#### ● 授業における、「成績評価の基準」を全学で統一します。

…教員間の成績評価への認識を統一し、学生が「秀」のレベルを認識できるようにします。

#### ● 「電子シラバス」が変わります。

…授業外学修時間に学生が学修すべき内容を示したり、履修目標と到達目標を分けて記述する他、授業の担当教員が「授業別ルーブリック」を入力するようになります。

#### ● 授業ごとに「授業別ルーブリック」を作成します。

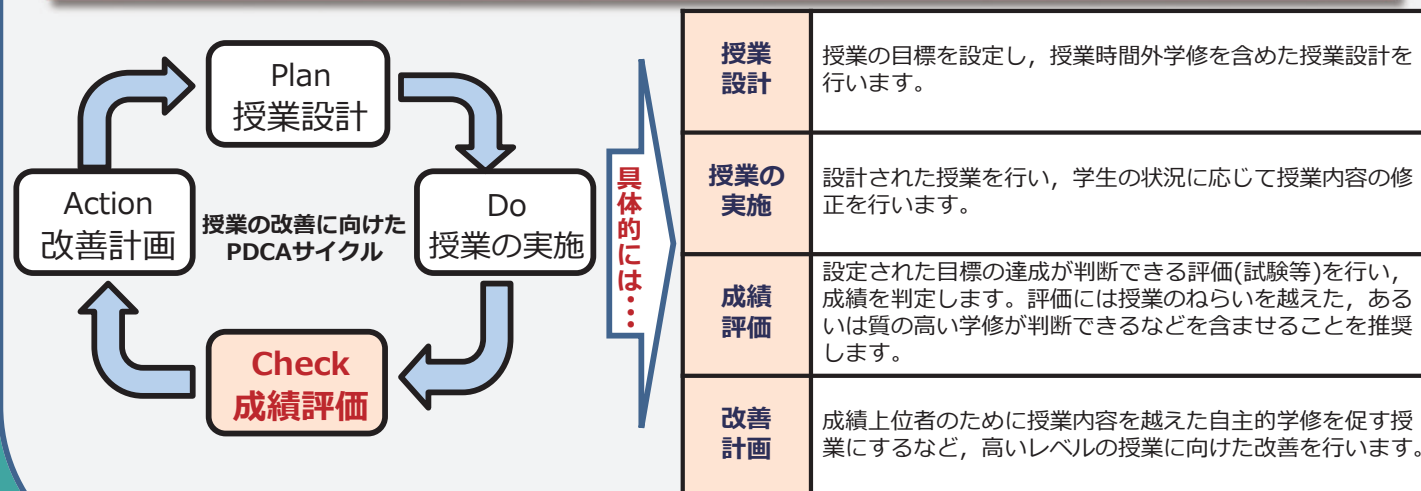
…ルーブリックとは、学生が何を学修するのかを示す評価の項目と、学生が到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標です。

### はじめに：授業改善の考え方を紹介します

#### ●大学を取り巻く社会情勢は大きく変化しています

教員が何を教えたかではなく、学生が何を身につけたかが世界的に重視されるようになりました。また、これからの予測困難な社会の中で学生が生き抜くために、生涯にわたって主体的に学び、グローバル社会で活躍できる人材の育成が社会から求められています。

PDCAサイクルを意識して、日常的に授業改善を図り  
学生に質の高い教育を行うことが重要です。



### 成績評価の基準を全学で統一します

教育改善のPDCAサイクルに繋がる成績評価の実現に向けて、成績評価の基準を全学で統一します。

#### Q. 基準を設けて統一する目的は何でしょうか？

A. 教員間の成績評価の基準を統一することで、学生が成績のレベルを認識し、自発的に学修するようになることを目的としています。

#### Q. 成績評価の基準とはどのようなものですか？

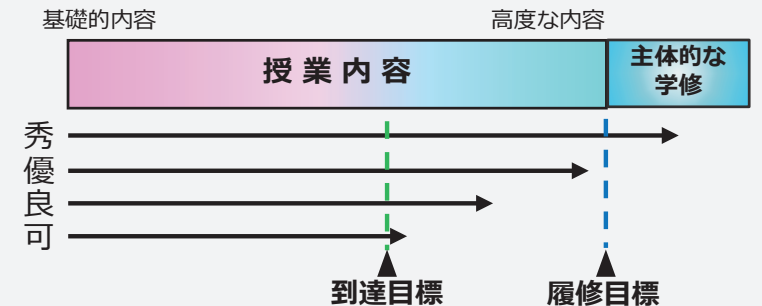
A. 授業の成績（秀・優・良・可・不可）と履修目標、到達目標との関係を示すものです。

「成績評価の基準表」（※電子シラバス上で学生にも示します）

| 秀                  | 優             | 良                        | 可           | 不可            |
|--------------------|---------------|--------------------------|-------------|---------------|
| 履修目標を越えたレベルを達成している | 履修目標をほぼ達成している | 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している | 到達目標を達成している | 到達目標を達成できていない |

履修目標と到達目標の概念を説明します。

| 履修目標 | 授業で扱う内容を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。            |
|------|------------------------------------------------------------|
| 到達目標 | 授業を履修した学生が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するにはさらなる学修を必要としている段階です。 |



基準の統一

- ・学生に対して授業の目標、成績評価の基準を明確にすることで学生が学ぶ方向が正しく設定できます。
- ・学生への成績評価の信頼性を高め、教育の質を保證することができます。

### 電子シラバスが変わります

成績評価の基準表と授業別ルーブリックの導入にあわせて、電子シラバスが平成28年度春学期入力分から変わりました。

具体的な変更点を紹介します。

#### ①「授業時間外の学修内容」の項目を追加します。

学生に、授業時間外に学修すべき内容を、明確に示すことができるようになります。

#### ② 履修目標と到達目標の項目を分離します。

履修目標と到達目標は、成績評価の基準表に対応しています。

#### ③ 成績評価の基準表を、電子シラバス上で学生に示します。

学生が成績評価の基準を明確に把握できるようになります。

#### ④ 成績評価の項目を「成績評価の方法」「成績評価の基準」に分離します。

成績評価の基準の入力には、「授業別ルーブリック」の作成機能を追加します。

ルーブリック入力画面  
(イメージ)

| 評価項目  | 評価基準          |                |               |               |               |
|-------|---------------|----------------|---------------|---------------|---------------|
|       | 期待している以上である   | 十分に満足できる(履修目標) | やや努力を要する      | 努力を要する(到達目標)  | 相当の努力を要する     |
| 評価項目A | 評価基準1<br>[水準] | 評価基準2<br>[水準]  | 評価基準3<br>[水準] | 評価基準4<br>[水準] | 評価基準5<br>[水準] |
| 評価項目B |               | 履修目標           |               | 到達目標          |               |
| 評価項目C |               |                |               |               |               |

# 「授業別ルーブリック」を導入します

## 「ルーブリック」とは？

ルーブリックとは、学生が何を学修するのかを示す評価の項目と、学生が到達しているレベルを示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標です。

成績評価の基準を学生に明確に示すことにより主体的な学びを促すことを目的として、電子シラバスを改修し「授業別ルーブリック」を授業担当教員に入力していただくことになりました。

授業別ルーブリックの評価基準は、5段階になります。

| 評価基準        | 内 容                                     |
|-------------|-----------------------------------------|
| 期待している以上である | 授業の範囲を越える内容までを自主的な学修で修得していることが認められる。    |
| 十分に満足できる    | 履修目標の水準をほぼ修得している。授業の内容をほぼ修得したことが認められる。  |
| やや努力を要する    | 履修目標と到達目標の中間に位置しており、努力することを勧める。         |
| 努力を要する      | 到達目標の水準をほぼ修得している。まだ努力が必要だと示唆している。       |
| 相当の努力を要する   | 到達目標に達しておらず、授業のねらいの水準に達するには相当の学修が必要である。 |

講義型授業における、ルーブリックの例を紹介します。

| 評価項目              | 評価基準                  |                           |                              |                          |                                |
|-------------------|-----------------------|---------------------------|------------------------------|--------------------------|--------------------------------|
|                   | 期待している以上である           | 十分に満足できる<br>(履修目標)        | やや努力を要する                     | 努力を要する<br>(到達目標)         | 相当の努力を要する                      |
| 理解度<br>(35%)      | 授業内容を越えた自主的な学修が認められる。 | 授業内容をほぼ100%理解している。        | 到達目標は理解しているが、授業内容に不足がある。     | 到達目標に達していることが認められる。      | 到達目標に達していない。                   |
| 課題解法能力<br>(35%)   | 解法が分からない他人にアドバイスができる。 | 何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。 | 参考書などを参考にすれば、独自で課題を解くことができる。 | 他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。 | 他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。 |
| 調査能力(予習)<br>(30%) | 自ら進んで予習範囲を越えて調べている。   | 予習範囲を十分に理解し、他人に説明できる。     | 指示した予習範囲の理解にあいまいな点がある。       | 指示された範囲は予習するが、理解が不十分である。 | 指示された範囲は予習が不十分である。             |

※ 授業の形態、学問分野によって、評価項目、内容は異なります。評価項目の数は任意です。  
 ※ 評価項目によっては、該当する評価基準の説明がない場合もあります。その際は空欄になります。  
 ※ ( ) 内の%は、成績評価に寄与する重みになります。学生に示すことで、より透明性の高い評価となります。

ルーブリック  
の導入

- ・学修の方向と到達度が明確になり、学生に主体的な学修を促す効果があります。
- ・成績評価の基準が明確になり、レポート等の採点にあいまいさが無くなります。さらに、レポートの採点に活用すれば、採点時間の短縮につながります。

## 授業設計と成績評価ガイドライン

平成27年5月 作成/平成29年12月 改訂

YNU

編集 刊行：YNU教学マネジメントチーム 高大接続・全学教育推進センター

事務局：大学教育再生加速プログラム支援室（学生センター2階 学務部教育企画課）

E-mail：ynu-ap@ynu.ac.jp 内線：3106

